

《担当者名》平野 剛（薬） takeshih@hoku-iryu-u.ac.jp

### 【概要】

本科目は薬物が生体に対して与える影響を薬理学の観点から学修し、これまでに修得した基礎医学の知識と臨床との関連について、どのように結びつけ応用するのかを考察する。看護師は患者に接する機会が最も多いので、薬物の効果や副作用、投与する際の注意点などを正しく理解し、薬物療法の有効性を十分に引き出すとともに、医療事故の防止と患者安全に寄与することが求められている。

### 【学修目標】

- 1 安全かつ有効な薬物療法を実施するために、薬物の生体に対する作用や副作用などの基礎知識を理解する。
- 2 最新の医薬品の情報を調べるために、収集、検索に関する基礎知識を身につける。
- 3 薬物療法の目的と効果、あるいは発現する可能性のある副作用について、患者に正しく説明できる。
- 4 薬の種類、その取り扱いと使用方法について、患者に正しく説明できる。
- 5 医薬品管理の意義と関連法令を説明できる。

### 【学修内容】

| 回  | テーマ                       | 授業内容および学修課題  | 担当者 |
|----|---------------------------|--|-----|
| 1  | 薬理学とは                     | ・薬物療法の基本<br>教科書4-7, 12-23  | 平野  |
| 2  | くすりとは                     | ・薬の種類<br>・処方せんと医薬品添付文書の読み方<br>教科書328-336                             | 平野  |
| 3  | 投与された薬物の動きを考える            | ・薬物動態学（吸収、分布、代謝、排泄）<br>・薬物相互作用<br>教科書24-48                           | 平野  |
| 4  | 医薬品管理の意義と必要性を考える          | ・麻薬、毒薬、劇薬、ハイリスク薬、普通薬、生物由来製品<br>教科書54-63, 278-287                     | 平野  |
| 5  | 輸液管理に強くなる                 | ・体液管理と栄養療法<br>・人体に必要な栄養素<br>教科書313-320                               | 平野  |
| 6  | ポリファーマシーを考える<br>チーム医療を考える | ・有害作用の早期発見と防止、リスクマネジメント<br>・薬物療法における看護師の役割<br>教科書8-11, 48-54<br>中間試験 | 平野  |
| 7  | 感染症治療薬                    | ・抗菌薬、抗生物質、消毒薬<br>教科書67-102, 305-312                                  | 平野  |
| 8  | 抗がん薬                      | ・アルキル化薬、代謝拮抗薬、分子標的薬<br>教科書103-116                                    | 平野  |
| 9  | 免疫抑制薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬        | ・免疫抑制薬、免疫増強薬、ワクチン、抗ヒスタミン薬、非ステロイド性抗炎症薬、ステロイド<br>教科書117-128, 129-144   | 平野  |
| 10 | 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物        | ・気管支ぜん息治療薬、鎮咳・去痰薬、消化性潰瘍薬、制吐薬、止瀉薬、ホルモン剤                               | 平野  |

| 回  | テーマ          | 授業内容および学修課題   | 担当者 |
|----|--------------|---|-----|
|    | 物質代謝に作用する薬物  | 教科書239-258, 259-274                                 |     |
| 11 | 循環器系に作用する薬物  | ・降圧薬、狭心症薬、心不全薬、抗不整脈薬、利尿薬<br>教科書197-221              | 平野  |
| 12 | 循環器系に作用する薬物  | ・脂質代謝異常症薬、貧血治療薬、抗血液凝固薬<br>教科書221-238                | 平野  |
| 13 | 中枢神経系に作用する薬物 | ・全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬<br>教科書165-184            | 平野  |
| 14 | 中枢神経系に作用する薬物 | ・パーキンソン病治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬<br>教科書185-196             | 平野  |
| 15 | 末梢神経系に作用する薬物 | ・交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬<br>教科書145-164, 287-296 | 平野  |

#### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

期末定期試験（70%）、中間試験（15%）、課題レポート（15%）

各試験結果から理解度を評価し、問題を解説する等、フィードバックする。

#### 【教科書】

系統看護学講座「薬理学 第15版」吉岡充弘、泉剛、井関健、横式尚司、菅原満 著、医学書院

#### 【参考書】

系統看護学講座「臨床薬理学」井上智子、窪田哲朗 編集、医学書院

「くすりがかかる 作用機序×使い方×観察・ケア」、柳田俊彦 監修、南山堂

「薬の基本とはたらきがわかる薬理学」、柳田俊彦 編、羊土社

「FLASH薬理学」丸山敬 著、羊土社

「疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学 第4版」、中嶋敏勝 編著、医歯薬出版

「はじめる！つかえる！看護のための薬理学」時政孝行 著、南山堂

「薬理学の基本がわかる事典 カラー図解」久保鈴子 監修、西東社

「知らないといけない！病棟でよく使われるくすり」荒木博陽 編集、照林社

「看護学生のための薬理学ワークブック」食見忠弘 著、医学書院

「治療薬マニュアル2024」医学書院

「今日の治療薬2024」南江堂

#### 【備考】

##### 【ICTの有効活用】

講義の補助としてプリントを配布するとともに、PDFファイルをGleixa等にアップロードする。

Google Formを活用し、授業時間中に学生の理解度を把握する。

##### 【学修の準備】

授業範囲の予習として、指定した教科書の該当する範囲を事前に読んでおくこと。（予習1時間）

指定した教科書の該当する範囲の医薬品について、自らインターネット等で検索・調査すること。（予習30分）

毎回、授業内容に関する小テストを実施するので、理解度を自己評価し復習すること。（復習30分）

なお、6回目の講義時間内（約30分）で、1 - 5回目までの範囲に関する中間試験を実施するので、復習すること。

#### 【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2. 看護専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実

践的能力を身につけている。

**【実務経験】**

薬剤師

**【実務経験を活かした教育内容】**

教科担当者は、特定機能病院である大学病院及び保険薬局等の実務経験者であり、医師及び看護師等とのチーム医療を実践してきた。病院及び薬局薬剤師業務の経験を活かし、基本的な薬理学の知識及び実践的な医薬品管理や薬物療法について概説する。